

顕現後第5主日 説教

「仕えるものにしてください」

〔旧約聖書〕 列王記下 4: (8~17) 、18~21、(22~31)、 32~37 〔使徒書〕 コリントの信徒への手紙 I 9:16~23 〔福音書〕 マルコによる福音書 1:29~39

主の平和が皆さんと共にありますように。

「朝早くまだ暗いうちに、イエスは起きて、人里離れたところへ出て行き、そこで祈っておられた。」

(マルコ 1:35)

「近くのほかの町や村へ行こう。そこでも、わたしは宣教する。そのためにわたしは出てきたのである。」(マルコ 1:38)

顕現後第5主日で選ばれている福音書では、シモンのしゅうとめの病を癒し、その後多くの病人を癒し、また多くの悪霊にとりつかれている人を追い出したことが記されています。

おそらくイエスの評判は街中で広まっていたのではないかと思います。しかし、イエス様はそのような事には一切見向きもされません。良い評判に鼻高々にさせようとするのは悪魔の仕業ですが、「悪霊にものをいうことをお許しにならなかった」(マルコ 1:34) のです。

イエス様がこの世界に来られた目的は神の国の福音を述べ伝え、神の国の完成のために私たちを招くことでした。その働きを邪魔しようとする悪とイエス様は闘われたのでした。

悪魔と闘うために人里離れた所で祈ることが必要だったのです。祈りの内容は福音書には記されていませんが内容よりも状態が大切なのです。イエスは一人で静かに己と向き合い、神に祈る時間を大切にされました。それは私たちにも必要なことです。

これだけ多くの人の病を癒し、奇跡を行えばカリスマとして有名になっていくでしょう。しかし、イエス様は一切それを拒絶されました。

シモンのしゅうとめが癒された箇所を見てみましょう。「イエスがそばに行き、手を取って起こされると、熱は去り、彼女は一同をもてなした。」(マルコ 1:31) とあります。

彼女はイエス様が差し出した手に触れて、癒されて、人々に仕える者になっていったのです。

イエス様を信じますから、どうぞ私をお守りくださいという信仰ではなく、イエス様を信じます。どうぞ私を仕える者にしてくださいという信仰こそが大切だと思います。

神の国の完成を妨げる悪の力を退けるためにイエス様は来られたのです。

イエス様は私たちに呼びかけておられます。「近くの町や村へ行こう。」そこで宣教されるイエス様の後に従って参りましょう。私たちは派遣されていることを忘れてはいけません。悪の力に負けないためにもイエス様の差し出された手をしっかり取って、謙虚に仕える者になっていくことが出来ますように。

父と子と聖霊に栄光がありますように。